

平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果について

下松市教育委員会

1 調査結果の公表にあたって

平成25年度全国学力・学習状況調査(平成25年4月24日実施)の結果についてお知らせします。

本調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象とし、国語、算数・数学の学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境等の状況を調査するものです。本年度は全数調査として、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善に役立てるため、全小中学校において調査を実施しました。また、一部の学校においては、「きめ細かい調査」として、保護者の皆さんの御意見もお聞きしました。調査に御協力いただき、ありがとうございました。

これまでの各小中学校の取組により、本市の児童生徒の学力は着実に向上していますが、「知識・技能の確実な定着」や「活用する力の育成」、「学習意欲の向上」については、引き続き重要な課題です。本市では今後も、学校と家庭・地域が連携・協働し、一体となった取組を推進していきます。



2 教科に関する調査結果について

(1) 全体の結果(下松市立全小・中学校)

★ 小学校

- 国語Aと国語Bの平均正答率は、いずれも全国平均、山口県平均を上回っている。
- 算数Aと算数Bの平均正答率は、いずれも全国平均、山口県平均を上回っている。

★ 中学校

- 国語Aの平均正答率は、全国平均を上回っているが、山口県平均をわずかながら下回っている。国語Bの平均正答率は、全国平均、山口県平均を上回っている。
- 数学Aと数学Bの平均正答率は、いずれも全国平均、山口県平均を上回っている。
- 国語A・Bと数学A・Bの平均正答率を総合すると、平成22年度小学校6年生時点での国語と算数の調査結果と比較し、著しく向上している。

※ A問題は、主として「知識」に関する問題で、基礎的・基本的な知識・技能を習得しているかを問う問題です。
B問題は、主として「活用」に関する問題で、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用できるかを問う問題です。

[参考資料] 全国と山口県の平均正答率(%)

小 学 校		
区分	全 国	山 口 県
国語A	62.7	64.3
国語B	49.4	50.2
算数A	77.2	77.9
算数B	58.4	59.9

中 学 校		
区分	全 国	山 口 県
国語A	76.4	77.3
国語B	67.4	68.3
数学A	63.7	65.5
数学B	41.5	44.2

(2) 各教科ごとの結果

◎:相当数の児童生徒ができている点 ▲:課題のある点

小学校 国語

- ◎ 第5学年までに学習した漢字を読むこと。
- ◎ 相手の立場や状況を感じ取って聞くこと。
- ▲ 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。
- ▲ 目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと。



小学校 算数

- ◎ 整数や分数の四則計算をすること。
- ◎ 示された情報から二つの要素(座標)の意味を解釈し、ものの位置を特定すること。
- ▲ 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解すること。
- ▲ 割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断理由が特定できること。



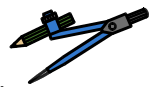
中学校 国語

- ◎ 第2学年までに学習した漢字を読むこと。
- ◎ 文脈の中で敬語を適切に使うこと。
- ▲ 比喩を用いた表現について理解すること。
- ▲ 文章の構成や表現(新聞記事の書き方)の特徴を捉えること。



中学校 数学

- ◎ ()を含む正の数と負の数の計算、分数の乗法の計算をすること。
- ◎ 与えられた表から乗法を適切に選択し、処理すること。
- ▲ 関数の意味(絶対値の意味)を理解すること。
- ▲ 事象を理想化・単純化して、事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えること。



3 生活習慣や学習環境等に関する結果について

(1) 望ましい状況

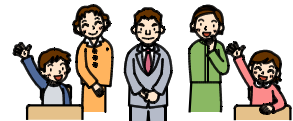
※(1)、(2)とも小・中学校に共通する事柄

- ◎ いじめは、どんな理由があってもいけないと思う児童生徒の割合が高いこと。
- ◎ 自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合が高いこと。
- ◎ 人の気持ちが分かる人間になりたいと回答した児童生徒の割合が高いこと。
- ◎ 家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合が年々増えていること。

(2) 課題とみられる状況

- ▲ 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)学習する時間が短いこと。
- ▲ 土・日曜日など学校が休みの日に学習する時間が短いこと。
- ▲ 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒の割合が低いこと。
- ▲ 本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館に行く回数が少ないこと。(小学校のみ)

4 今後の取組について



★ 学 校

- 組織的取組の強化(研修を中核とした学校改革、学力向上プランの改善、チームによる機動的・組織的な取組の強化等)
- 教員の授業力の向上(積極的な授業公開、校内研修・授業研究の活性化等)
- 学習内容の充実と指導方法の工夫
(自分の考えをまとめ伝え合う学習や活用力を高める学習の充実、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実、評価問題の工夫、やまぐち学習支援プログラムや学力定着状況確認問題の活用等)

★ 家庭・地域

- 学習・生活習慣の改善(「家庭学習の手引き」の活用、家庭生活の見直し等)

★ 下松市教育委員会

- 各学校の取組の検証
- 学力分析と情報提供
- 継続的な学校訪問による指導・助言
- 活用力を高める授業づくりに関する指導・助言
- ワークショップ型授業研究等による校内研修充実への指導・助言
- 下松市教育研究所員による研究授業の公開